



会長 本 郷 次 雄

(昭和62～63年度)

会 長 就 任 に あ た っ て

菌類談話会の30余名を母体に日本菌学会が発足して31年が経過しました。そして今や会員数1,200名を超える大きな学会に発展し、国内の関係諸学会や諸団体とはもちろんのこと、世界のそれらともさかんに交流を行う活発なものとなりました。1983年には、他学会との共催で、第3回国際菌学会議を東京で開くことができたのは特筆すべきことだと思います。

さて、このような大きな実績と将来性をもった本学会の会長として、今回不肖の私を選んでくださったことに、会員の皆さんに厚くお礼を申し上げますとともに、私の重責を果たすためにはさらに絶大なご支援を仰がなければならないことを訴えるしだいです。

本学会が今後さらに躍進するためには、菌学研究面での充実はもちろんのこと、会員の皆さ

んの「和」、諸経費の節約、そしてひとりひとりが等しく会からの恩恵を受けること、などが必要と思います。去る5月の筑波大会のさいの総会で、私は本学会の現在の規約の総見直しが必要なことを述べました。時代の推移とともに、それに適した規約に修正しなければ、本学会の躍進は望めないと考えるからです。

本学会はアカデミックな会員、実用面での会員、教養的な面での会員が共存しておられるのが特徴だと思います。後二者の会員数はかなりの割合を占め、年々納められる会費が学会運営の重要な財源となっています。皆さんがふるって諸行事に参加し、会報やMSJニュースに投稿され、等しく恩恵を受けられることをくり返しお願いするしだいです。